

八女茶で乾杯条例（仮称）視察研修報告書

2022年7月25日（月）～27日（水）3日間の視察研修、JR早朝出発12時37分掛川到着、早々に13時15分より掛川市役所にて市議会議員、環境産業委員会・委員長 藤原正光氏より歓迎のあいさつをいただきました。

産業経済部・お茶振興課長・松本好道氏、他3名より掛川市緑茶で乾杯条例の説明をいただきました。（詳細は資料添付：HPへの掲載は割愛）

静岡一帯に茶生産があり、その上で各市に茶業課が設置されて、しっかり茶推進に行政が取り組んでいるのは流石日本一の茶産地だと感銘を受けました。

15時00分までしっかり研修を終え、ふじのくに茶の都ミュージアムを視察、茶畑の中に膨大な施設を建設、コロナ禍の中にてお客様は少なかった様に見受けられます。八女に果たしてこのような施設は必要かと問うと疑問です。あまり費用対効果はない様にかんじます。

26日2日目は、掛川市を出発、島田市の（KADODE OOIGAWA）JA おおいがわ出資の施設で物産販売所が開業されていました。その中に、茶のブレンド販売がされて、好みのブレンド茶をその場で買って、その場で抽出して楽しむシステム。これは八女市も取り入れるべき販売方法でもあると感じます。

午後からは、静岡市役所、議会事務局課長 佐藤征教氏の歓迎のあいさつの後、お茶のまち推進担当課長・鈴木芳紀氏他3名より「静岡市めざせ茶どころ日本一条例」の説明をいただきました。（詳細は資料添付：HPへの掲載は割愛）100年先の茶業を考えた政策は非常に行政の取り組みの真剣さが伝わってきました、どの市にお伺いしても、お茶の専門課が設置されて消費の減少対策は苦悩されているようです。例外なく八女市におきましても茶業全体が不況の風が吹き続けています。（なんとかせんといかん）

近年では静岡県全体に、日本茶カフェが開業されて、茶は無料で飲むものから、有料で飲む習慣を作ろうとしている所は共感できるところです。

27日3日目は、富士市の（海と富士の茶の間）にお伺いしました。本田製茶さん（茶生産者）が茶畑で茶話と5種の茶を入れて、料金3,500円少々・・・かな？

八女では景観の良い場所は沢山あります。システムをもっと改良してとりいれたら、いいものが出来ると感じます。

全体的には、茶に対して危機も感じ、相当な尽力も投入されていることが身に染みて感じ取れました。（八女茶で乾杯条例（仮称）もししっかりと進めてまいりたいと改めて感じている所です。3日間お付き合いくださいました農業振興課の2人さんお疲れさまでした。有意義な研修が出来ましたことに感謝もうし上げまして報告といたします。

川口堅志